

## IOSCOによる「第2回 IOSCOヘッジファンドサーベイ報告書」の公 表

証券監督者国際機構（IOSCO）は、本日、「第2回 IOSCO ヘッジファンドサーベイ報告書」（以下、「本報告書」という。）を公表した。本報告書は、ヘッジファンド業界及びその特徴についてより理解するための、関係規制当局の包括的で国際的な努力について記述されている。

IOSCO ヘッジファンドサーベイ（以下、「本サーベイ」という。）の目的は、ヘッジファンド運用会社及び助言会社から、運用する市場、取引活動、レバレッジ、資金調達及びカウンターパーティー情報についてのデータを集めることである。これは、ヘッジファンドの取引及び不透明さに関連したリスクを抑制するという G20 のイニシアティブをサポートする IOSCO の努力の一部である。

いくらかの制約、とりわけ、ヘッジファンドの公表情報の量が限られているという制約がある中で、本サーベイは、この分野の市場を調査する上で役に立つツールであることが証明された。ヘッジファンドは、複数の地域を跨いで活動する傾向にあり、このイニシアティブは、これらヘッジファンドのグローバルな特性に対する独特な視点を与えた。

本報告書は、第2回 IOSCO ヘッジファンドサーベイの結果について説明しており、2012 年 9 月時点でのヘッジファンド業界の概観を提供している。本報告書は下記について述べている。

- 条件を満たすファンド：本サーベイでは、条件を満たす 1,044 のファンドのデータを集計した。ヘッジファンドの運用会社及び助言会社の所在地として、最も優勢なのは米国と英国であった。
- 運用資産額：本サーベイで条件を満たしたファンドの純運用資産合計額は 1.94 兆ドルであった。

- ファンドの籍：これらファンドはより良い租税環境と規制枠組みを求めて、通常オフショア地域に籍を置く。その中でも、ケイマン諸島に籍を置くファンドが最も多い。
- 投資戦略：本報告書によると、アクティブなファンドの中で最も代表的な戦略は、エクイティ志向のものである。マクロ志向な戦略とマルチ戦略もまた重要な戦略である。
- レバレッジの利用と市場エクスポージャー：本報告書では、ヘッジファンドが市場エクスポージャーを増大させるため、どのように金融上のレバレッジを用いているかが示されている。このデータは、規制当局がシステミックリスクをより理解し把握するための分析のコアとなるものである。
- 流動性リスク：規制当局が、ファンドの資金難への陥りやすさを測定するための主要な指標である。本サーベイによると、現状の市場環境では、投資家の流動性を制限する必要があるファンドはほとんどない。

本サーベイは、以下の目的で、規制当局間での、整合性があり比較可能なデータの交換が促進されることを目指すものである。

- 当該分野で起こりうるシステミックリスクに対する国際的な協力の促進
- 必要に応じ、とり得る規制の選択肢について議論を行う場の提供
- グローバルなヘッジファンド業界に対するより良い識見の取得

IOSCO 事務局長である David Wright 氏はこのように述べた。「この作業は、より透明で開かれたグローバルな金融システムを発展させていく上で、必要不可欠な要素である。規制当局が、適切な政策判断を行う基となる、市場の全体に対する十分な理解を持つことは重要である。」

本報告書は、データ収集作業の限界について認識しており、金融システムに対するリスクについて明確な結論を導き出すには至っていない。IOSCO は引き続き、国際的に整合性のあるリスク測定のアプローチを促進し、データの質と信頼性を向上させるため、規制当局から比較可能なヘッジファンドのデータの収集を促進し続ける。

IOSCO は、次回サーベイを 2014 年 9 月時点のデータを収集して行うことを予定している。